

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈6月20日（金）放送分〉

テーマ「おすすめの本①」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、「おすすめの本」シリーズの第1回目です。今回は、鹿児島県立図書館が発行している「鹿児島の高校生が薦める本」の中から3冊紹介します。

最初の1冊目は、湯本香樹実さんの「夏の庭」です。人の死ぬ瞬間を見てみたいという好奇心から、町外れに住む一人暮らしのおじいさんを見張る少年3人。おじいさんは、毎日、テレビを見て過ごし、食事はコンビニ弁当で済ませ、掃除もゴミ出しもしない生活を送っていました。しかし、観察されていると知ったおじいさんは、憤慨しつつも、今までの生活を一変させ、買い物をスーパーや魚屋で行うようになり、家や庭の手入れを始め、だんだん元気になっていきます。そして、日が経つにつれ、少年たちとおじいさんは、言葉を交わすようになります。少年たちは、おじいさんの家に集まり、家の手入れやごみ出しを行うようになります。ぎこちなく交流しながらも、少年たちの悩みとおじいさんの寂しさはとけあっていきます。そして、忘れられないひと夏の「友情」がうまれます。おじいさんと少年たちの楽しく充実した毎日。しかし、その日は、突然訪れます。死、生きるということを深く考えさせられ、クライマックスでは目頭が熱くなる物語です。

2冊目の本の紹介です。みなさんは、日野原重明さんを知っていますか。どこかで聞いたことがある！と思っていらっしゃる方も多いことでしょう。ベストセラー本「生き方上手」の著者である日野原さんは、現在102歳の現役の医師で、東京の聖路加病院の理事長をされている方です。その日野原さんが書かれた本「働く。社会で羽ばたくあなたへ」を紹介します。

この本は、明治生まれの著者と平成生まれの二十歳前後の若者が「働くということ」をテーマに対話した内容を、これから社会に出る人たちへのメッセージとして日野原氏自身の体験を交えて書かれています。10項目に分かれている中から一部を紹介します。

「くり返しを力に変える」という項目では、『習慣が人をつくるのです。よい習慣を身につければ、頭で考えるよりも速く、すんなりと心とからだが良い方向に動き出してくれる

はずです。反対に、わるい習慣を一度身につけてしまえば、わるいものに心もからだもすっかりなじんで、そこから抜け出せなくなってしまいます。強^{きょうじん}靱なよい習慣を、ことに若いうちから働く行為のなかにも意識的につくっていく努力をし続ければ、やがて仕事の中に見事な自己表現や自己実現が果たせるはずです。』とあります。

また、「挫折^{ざせつ}や失敗をプラスの体験^{てんかん}に転換する」という項目では、『人生にむだな体験などひとつもないということ。どんな体験もそれをなかったことにすることはできませんが、人はマイナスから学ぶことができます。ポジティブにとらえ直せば、体験の意味は百八十度転換します。』とも書いてあります。

100年以上人生を歩んできた著者だからこそ、一つ一つの文章に説得力がある本です。これから社会へ出る人たちへはもちろんですが、社会に出て悩んだり立ち止まったりしている人にも元気が出てくるおすすめの本です。

そして、最後に紹介するのは、長谷部^{はせべまこと}誠^{ちよしよ}さんの著書『心を整える。』です。6月12日からサッカーのワールドカップが始まりました。ザッケローニ監督率いる日本チームのキャプテンである長谷部誠さん。その長谷部さんが、勝利をたぐり寄せるための56の習慣を書いた本です。「生活のリズム、睡眠、食事、そして練習。日々の生活から、心に有害なことをしないように、少しでも乱れたら自分で整える。心は鍛えるのでなく整えるもの。いかなる時も安定した心を備えることが、常に力と結果を出せる秘訣^{ひけつ}だ。」と書いています。この本は、スポーツをされている方はもちろんですが、そうでない学生の方、ビジネスマンなど、様々な方にも参考になる1冊です。日本チームが勝利することを願いつつ読んでみるのはいかがでしょうか。

県立奄美図書館では、今回紹介しました3冊の本はもちろんですが、それ以外の「鹿児島の高校生が薦める本」も貸し出ししています。ぜひ、この機会に読んでみられてはいかがでしょうか。

職員一同、皆様のご来館を心からお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。